

刊行にあたって

いま、診療室で初めてメスを握ったときのことを思い出しています。事前に計画した治療について指導医とディスカッションし、術式の流れを繰り返しシミュレーションしました。不安はぐっと胸のなかに抑え込んで最初の切開を入れました。外科治療は、経験の浅い歯科医師にとってハードルが高い治療の一つです。できるだけ不安なく、安全に歯科小手術に取り組める、そんな支援になればという思いから、本書が企画されました。

超高齢社会となった現在、あらゆる歯科治療において、全身状態や疾患に配慮することの重要性はいうまでもありません。また、外科治療を行うにあたり、解剖学的な知識は繰り返し復習しておく必要があります。日常的に外科治療を行っている方も、大学で学んだ内容を実践するうえで疑問を感じたこともあると思います。たとえば、歯周外科における切開や縫合は、口腔外科における基本とは必ずしも一致していません。しかし、両方の基本を押さえたうえで、目の前の症例に取り組むことは、歯周病の治療でも口腔外科的な治療でもメリットが大きいと考えています。

本書は臨床の最前線で活躍されている口腔外科分野、歯周治療分野の臨床家を中心に執筆していただきました。わかりやすく、あまり教科書にならないようにし、いつでも診療室で手にとってポイントを確認できる本となるよう心を配りました。「ああ、こういうことだったのか!」と、重要な点を再確認できるようなヒントが散りばめられています。

本書を手にとっていただくことにより、歯科小手術の最初の一步を踏み出す、あるいは、さらに確実な処置を目指す方々に、経験豊富な先輩・指導医にそっと見守られているような安心感を与えることができればと願っています。

2016年9月
編集委員一同